

カラク考古博物館再開記念式典

2019年3月23日、カラク考古博物館の再開を祝う式典が開催され、柳秀直大使、ヤジドゥ・アル・アヤン観光・遺跡省考古局長（マジド・シュウェイカ観光・遺跡大臣が当日怪我をされて出席できなくなったため大臣のメッセージを代読）、小林勤JICA事務所長を始め、多くの関係者が出席しました。カラク考古博物館は、日本の円借款案件「観光センター開発事業」により建設され、2004年に開館しましたが、新たな建物への移転のため2014年12月から閉館していました。

再開した博物館では、訪問者が自身の携帯電話等でQRコードを読み取ることで、展示物の解説を読むことができます。解説は世界各国からの旅行者が利用できるようアラビア語や英語、日本語、その他主要言語の計10カ国語に対応しており、インターネットへの接続も不要です。これは、ヨルダン国内のみならず中東諸国の中でも、非常にユニークな試みです。また、博物館の再開に合わせて、カラクの観光情報を提供するウェブページ（<http://www.visitkarak.com/en/>）も整備されました。

日本大使館は、同博物館がカラク、そしてヨルダンの開発に資することを期待しています。



柳大使によるスピーチ



博物館内の紹介